

これからの富士宮を創る広報誌

So good!

# 創宮

■広島市への中学生派遣事業

■ぶどうを新しい特産品に

■富士宮囃子

■勝又琉偉選手 プロ野球の道へ!

So good! vol.36



## 竜王戦 静寂の中に尊厳あり

対局前の藤井聡太竜王と挑戦者の広瀬章人八段

世界文化遺産富士山が美しく見える割烹旅館たちばな「宝永」の間にて

広島市への中学生派遣事業

# 平和への思いを未来へつなぐ

昭和20年8月6日に広島、8月9日に長崎へ原子爆弾が投下されたことは、私たちが日本人にとって忘れることができない出来事です。

富士宮市では、令和元年度から、戦争の悲惨さを知ること、平和の大切さや命の尊さを学び、核兵器廃絶と世界平和の担い手になってもらうことを目的に、広島市への中学生派遣事業を実施しています。

今年も、8月18日と19日の2日間、市内12の中学校から16人の生徒を広島へ派遣しました。



「原爆ドーム」の前で説明を受ける子どもたち



「原爆の子」の像を見学



「原爆死没者慰霊碑」の前で記念撮影

現地ボランティアガイドの案内を受けながら、広島平和記念公園では、原爆死没者慰霊碑、原爆の子の像などを見学し、それぞれの碑や像に込められた核兵器廃絶と恒久平和への思いについて学びました。

また、広島平和記念資料館では、原子爆弾投下後の広島の様子を伝える写真や資料を見学しました。

平和の尊さを学ぶ



## 被爆体験を聞く



若山 登美子さんによる被爆者体験講話

被爆者の若山登美子さんは、7歳のとき、原爆投下から3日後、父親を捜しに疎開先から広島市内に戻り二次被爆者となったこと、大けがをした父親との再会や、その後、父親が亡くなり、残された自分や家族も心臓や血圧の異常などの放射能の後遺症と戦ってきたことなど、壮絶な体験をありのままに話してくれました。講話の最後に若山さんは、「戦争で家族や友達を亡くした私のような思いを皆さんに絶対にさせたくありません。今は平和がどんなに大切かわかりにくいかもしれませんが、両親、兄弟姉妹、友達がいることは、とても大切なことであり、決して当たり前ではありません。自分の命と同じように友達の命も大切にしてください。話し合い、理解しあいましょう。それが世界平和への

第一歩だと思っています。」と、中学生に呼び掛けました。

若山さんの言葉には、体験者としての重みがあり、中学生の心に響いたのではないのでしょうか。



## 未来へつなぐ

10月11日、広島市への派遣事業に参加した中学生による報告会が行われ、中学生からは、「被爆者の方々の思いを無駄にせず、私たちがその思いを引き継ぎ、原爆の事実を伝えていくことが大切」などの発表がありました。

広島市への派遣事業は、体験者の話を聞き、戦争の悲惨さを目の当たりにすることで、平和のために自分ができることを考える貴重な学びの場となりました。



報告会では、保護者も熱心に耳を傾けていました



報告をする  
海原夕佳さん  
(富士宮第一中学校)

## 核兵器廃絶平和都市宣言

平和の象徴である富士山を持つ富士宮市は、核軍拡競争の悪循環が核戦争の危険を増大させていることを憂い、人類の生存と恒久平和のために、すべての核保有国に対し、核兵器の廃絶と軍縮を求め、我が国の非核三原則が完全に実施されることを願い、国際社会の連帯と民主主義の原点に立って、核兵器廃絶の世論を喚起するため、ここに「核兵器廃絶平和都市」となることを宣言する。

昭和59年10月2日 富士宮市



核兵器のない平和な世界の実現への思いを込めて、児童館「らっこ」に、10基目の「核兵器廃絶平和宣言都市」の標柱を設置(令和4年8月)

# ぶどうを 新しい特産品に

富士宮市でぶどうが栽培されていることをご存じですか。  
富士宮産のぶどうを使った新しい特産品づくりに挑戦する人たちを  
紹介します。



富士山北山ワイナリー(北山)

代表 石川弘幸さん

代表の石川さんは、明治初期、富士宮でワイン造りが行われていたことに感銘を受け、伯父がかつてぶどう栽培をしていた北山で平成25年3月からワイン用ぶどうの栽培を始めました。

平成31年、富士宮市が果実酒リキュール特区の認定を受けたことにより、酒類の製造免許の要件が緩和され、少量でも製造免許を受けられることになりました。このこともワイン造りの追い風となりました。

ワイン造りで最も大切なぶどうの栽培では、化学肥料や除草剤は一切使わず、土壌の持つ力を高め、消毒の回数も極力少なくするなど、手間を惜しまず試行錯誤



発酵中に、ぶどうの皮と種から成分を抽出する様子

誤を繰り返しながら最善の方法を選んでいきます。

「今後は、日本固有品種のワインぶどうで作った純富士宮産ワインが全国的に認知され、富士宮市の新しい特産品となるよう、販路開拓に力を入れていきます。」と話してくれました。



富士宮産のぶどうで造られたワイン



代表の石川弘幸さん



## 富士山ワイナリー(根原)

オーナー アーネスト・シンガーさん

オーナーのアーネスト・シンガーさんは、富士山などの山々に囲まれた富士宮市の美しい自然に魅了され、平成19年に富士宮市でワイン造りを始めました。

ワイン用のぶどうは、垣根栽培が主流ですが、日本古来の品種「甲州」では、難しいといわれてきました。その垣根栽培に16年前から挑戦し、毎日手間をかけ、虫や病気からぶどうを守り、令和3年、初めて垣根栽培のぶどうを使った甲州ワ



収穫期を迎える垣根栽培のぶどう

インが誕生しました。その後、2.7ヘクタールの圃場に3千本の甲州種の苗木を植え、豪雨に耐えられるよう水路を整備しました。

また、10年前からは、中部大学とノンウィルスのぶどうの共同研究を始めました。

「富士宮産のワインを、日本だけでなく世界中で味わってもらえるようにしていきたい。」と話してくれました。



オーナーのアーネスト・シンガーさん(中央)



## 富士山ぶどうランド(外神)

園主 佐藤文紀さん

代表の佐藤さんは、富士宮市で、ぶどうをテーマに家族が楽しめる場所を作りたいと、外神でぶどう栽培を始め、今年の8月、完全予約制のぶどう狩り園をオープンしました。ぶどうは、実の色で緑系、赤系、黒系と種別され、富士山ぶどうランドではこの3種のぶどうを栽培しています。

オープンから一か月間で484人がぶどう狩りに訪れました。お客さんにぶどう狩りをより楽しんでもらえるように、ぶどう狩りの前にぶどうの豆知識を説明しています。



ぶどう狩りを楽しむ来園者



ぶどうの豆知識を聞く来園者の皆さん

「今後は、富士宮のさまざまな食材とぶどうを使った商品を開発するなど、ぶどうを通じていろいろな人が集まるテーマパークのような場所を目指していきたい。」と話してくれました。



静岡県指定無形民俗文化財

# 富士宮囃子



本宮での競り合い (神田橋交差点)

富士宮まつりは、富士山本宮浅間大社の秋の例大祭(11月3〜5日)の3日間、秋の収穫と一年の無事に感謝し、富士山本宮浅間大社周辺で、氏子が山車や屋台を引き回す付け祭です。

富士宮囃子(まぼこ)の歴史は古く、江戸時代末期まで遡り、富士山本宮浅間大社を氏神様とする氏子による奉納囃子として伝承されてきました。囃子は、いわゆる江戸囃子系で、沼津の根古屋や根形街道方面から伝わったといわれています。

囃子は、鉦(かね)(当り鉦) 1人、きんど(締め太鼓) 2人、おおど(長胴太鼓) 1人、笛(篠笛) 1人の五人囃子を基本として、囃子の厚みを増すために、鉦と笛を増やすことができます。

祭りで奏でられる富士宮囃子は、昭和41年8月に富士宮市無形文化財に、平成7年3月には静岡県指定無形民俗文化財に指定されています。

## 囃子の競り合い

本来の競り合いは、山車が鉢合わせしたときにどちらが道を譲るかを囃子の優劣で競うもので、負けた組は山車を引き下げて道を譲り、勝った組は囃子を奏でながら山車や屋台を進めたと言われています。

現在では、事前に交渉(取り決め)を行い、礼節を重んじた競り合いが行われています。



競り合いの事前交渉



富士宮囃子保存会の皆さん



宮参りでの囃子奉納（浅間大社本殿前）



富士宮囃子保存会による囃子披露



山車が連なる神田橋周辺

## 富士宮囃子保存会

富士宮囃子保存会は、富士宮囃子が静岡県無形民俗文化財に指定されたのを機に、富士宮市内の秋まつり祭典実施区への技術の指導と伝承を目的に、平成9年8月に発足しました。

囃子の保存は、地域ごとに行われ、長い年月とともに個性や味わいとなります。

富士宮囃子保存会では、祭りの後継者である子どもたちを育成するために、囃子の技術と競り合いの礼儀作法を後世に伝承する活動を行っています。



# 富士宮東高等学校 野球部

## 勝又琉偉選手

### プロ野球の道へ!

令和4年10月20日に開催された「2022年プロ野球ドラフト会議」で、勝又 琉偉 (かつまたるい) 選手が、千葉ロッテマリーンズから育成3位で指名を受けました。



試合前のボール積みで集中力を高める勝又選手

#### 勝又琉偉選手のコメント

育成指名なので、支配下登録選手となれるよう、2、3年間は怪我無く全力で頑張ります。そして、いつかは日本を代表する選手になりたいです。

#### 〈プロフィール〉

2004年10月7日生。富士市大淵出身。  
身長188cm 体重78kg  
好きなことは、寝ること。

小学1年から野球を始める。中学では投手、捕手、三塁手としてプレー。

富士宮東高等学校入学し、1年夏に4番・遊撃手で公式戦デビュー。2年の秋季県大会の頃からプロ野球スカウトに注目される。



バッティング練習に打ち込む勝又選手